

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

近代の文学や現代作家による作品など生徒が共感をもって学習し、言語による認識力と感受性をはぐくむことができるような教材が取り扱われている。また、現代の生活に関わる様々な問題についての文章が取り上げられるなど、社会の問題と向き合い、社会性を養うための教材が取り扱われている。ただし、本校の特色である分野別学習のうち、言語分野の生徒の学習資料としては、工夫が求められる。《①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧》

2. 教育基本法に基づく観点

人間と自然との関係、社会との関係、子どもの人権などを題材にした教材が扱われており、生徒たちは国語の学習を通して、これらのことに考えを深められるようになっている。また、各学年の「読書への招待」では命の尊さや生き方を考える教材が取り扱われている。これらの工夫は教育基本法の理念にかなうものである。《①・②・③・④・⑤》

3. 学習指導要領に基づく観点

たとえば「学習を始める前に」ではノートの書き方や発言・発表の仕方・話の聞き方など授業を受けるときの具体的なポイントが示されており、また各学年の主要な古典教材については、カラーの折込資料が用意され、生徒が興味関心を深めることができるよう工夫がなされている。また「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習が「読むこと」の教材と関連して配置されていたり、「書くこと」の解答例がいくつか掲載されていたりするなど、言語活動が苦手な生徒にとって取り組みやすい内容になっている。《①・②・③》

4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点

図表などの「非連続型テキスト」を多く用いた文章や、図表を使って表現する学習材が豊富に用意されていたり、内容や形式について読み比べできる文章が数多く掲載されていたりするなどPISA調査や全国学力学習状況調査で求められる力をはぐくむ工夫がなされている。《①・②・④》

5. 外的要素に関する観点

用紙は文字の視認性が高く、明るすぎない白色度である。1年生の「読むこと」の学習材本文では、2・3年生よりもひとまわり大きな活字が用いられており配慮がみられる。表紙の紙がもう少し固い方が耐久性も上がると思われる。《①・②》

6. 構成・配列に関する観点

「読むこと」の教材と関連して「書くこと」「話すこと・聞くこと」の学習が展開されるように構成されている。また、巻末には「言葉の力 一覧」が配置され身に付けるべき力が視覚化されている。教材のとびらには詩歌が配置され音読や創作活動から学習が始められるように工夫されている。《①・②・③》

7. 資料その他に関する観点

「本編」「基礎編」「資料編」の3構成となっている。「基礎編」では「本編」での「学びの扉」「文法の窓」をさらに詳しく解説しながら学べるように工夫されている。「資料編」では本編と関連した読み物教材が取り上げられている。また、「話すこと」や「書くこと」での学習で参考になる題材例や表現するためのさまざまな方法が具体的に示されている。《①》

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

近代の文学作品や現代作家による作品など、生徒が共感をもって学習し、言語による認識力と感受性を育むことができるような教材が取り扱われている。また、現代社会における諸問題について多様なテーマを取り上げるなど、創造への関心や社会性を養うための教材が取り扱われている。そして、単元ごとに「学びの窓」が設けられており、生徒が見通しをもって学習することができる。ただし、本校の特色である分野別学習のうち、言語分野の生徒の学習資料としては、内容の充実が求められる。《①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧》

2. 教育基本法に基づく観点

「絆」「生命」「群像」「伝統」「世界」という5つのテーマを設定し、そこに現代社会における諸問題について取り上げるなど、創造への関心や社会性を養うための教材を設け、3年間を通して繰り返し学びを深めることができる工夫がなされている。これらの工夫は教育基本法の理念にかなうものである。《①・②・③・④・⑤》

3. 学習指導要領に基づく観点

小学校での既習事項を踏まえ、基礎的・基本的な内容から取り組める工夫がなされている。そして、「この教科書を使うあなたへ」では教科書の全体構成とともに、学習の進め方などが説明されている。また、「読むこと」の学習では、最初の教材で読解を助ける問いを脚注に設ける工夫がみられる。「活動を考える」では「読むこと」で扱った作品をもとに、表現活動へと広げることが示され、「読むこと」と「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動が関連付けられるよう配慮されている。また、本編での「読むこと」の領域で作品が豊富に用意されている。《①・②》

4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点

たとえば「話すこと・聞くこと」の単元においてプレゼンテーションやパブリック・スピーキングなどが取り上げられ、ねらいを明確にして言語活動を行えるように工夫されている。また「読むこと」の教材の「学びの窓」の各設問をはじめ、随所に「表現を吟味する」課題を設定し、より深い読解力を求める工夫は全国学力・学習状況調査の結果に基づいてなされた工夫と考えられる。《①・④》

5. 外的要素に関する観点

紙面は目に優しいクリーム色の紙を使い、読みやすい工夫がなされている。また書き込みをしやすいよう、鉛筆が定着する表面加工もなされているなどの工夫がみられる。表紙の紙がもう少し固い方が耐久性も上がると思われる。《①・②》

6. 構成・配列に関する観点

学年進行につれてより高度な学習内容になるよう大きな五つの単元で構成されている。また指導が特定の時期に偏ることなくバランスがよい。《①・②》

7. 資料その他に関する観点

読むことに重点を置いた教科書であり、文学的文章に割かれるページ数が多い。限られたページ数であるため、文語文法などについての情報量の充実が求められる。《①・②・③》

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

読む単元において、生徒に身に付けさせたい力が「読み方を学ぼう」というタイトルでわかりやすくカラー刷りで図やイラストを用いて掲載されている。これは、生徒たちにとっては身に付けなければならない力が視覚化されていることを意味しており、わかりやすい。また意欲的な学習態度を育成するうえでも有効である。これは、大阪府が目指す学力の向上の礎となる基礎、基本の定着に効果的である。《①・②・③・④・⑤・⑥・⑧・⑨》

2. 教育基本法に基づく観点

教育基本法第2条「教育の目標」をふまえた多種多様な教材がとりそろえられている。生徒は、国語の学習を通して教育基本法の基本理念に掲げられている項目について考えられることができる。《①・②・③・④・⑤》

3. 学習指導要領に基づく観点

「領域別教材一覧」では、教材と言語活動、つきたい力が明示されている。「読むこと」の教材では、「学びの道しるべ」を活用して、基礎・基本を段階的に学ぶことができるよう工夫されている。「読み方を学ぼう」では読むための技術が取り扱われている作品を例として図解で示している。また、「資料編」では、伝統的な言語文化と国語の特筆に関する事項が必要に応じて活用できるように工夫され、基礎事項を学ぶための工夫が多く見られる。《①・⑩・⑪》

4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点

討論ゲームや即興劇、企画会議など、多様な言語活動が取り扱われている。また、ふるさとを見つめなおす「地域情報誌」や中学校生活を振り返っての「名言集」を書く取組など、社会生活に関わる題材が取り上げられていたり、「資料編」の「学ぶ力を高めよう」では本編の理解や他教科の学習に活用できる7つの方法が示されていたりと、教科を超えた横断的な言語活動を展開できる工夫がなされている。《①・②・④》

5. 外的要素に関する観点

製本が丈夫で十分な耐久性を備えている。また、印刷も鮮明で紙の白色度も目が疲れにくい用紙を使用している。ただし、古典の絵巻の写真や教材に関する写真資料が充実するといっそう扱いやすい。《①・②・③》

6. 構成・配列に関する観点

幅広いテーマからバランスよく教材が配置されている。また、古典教材の最後には年表が示され作品の成立時代を視覚的に理解したり、既習事項を復習しながら学習を進められる工夫がなされており、基礎・基本事項を学ぶには適している。《①・②・③・④》

7. 資料その他に関する観点

「本編」と「資料編」の2部構成となっており、資料編は「読書の広場」「考える広場」「参考資料」からなり、情報活用に資する資料、伝統文化に親しむ資料、言語活動に必要な知識などを掲載している。《①・②・③》

国語		教科用図書選定にかかる学校調査会調査用紙			
教出					
<p>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>近代の文学や作家による作品など、生徒が共感をもって学習できる工夫がなされている。また取り扱われている教材も人間、社会、自然や環境の問題を題材とした教材が取り扱われ、考えが深められるような配慮がなされている。1年生「電子レンジの発想」「笑顔という魔法」といった説明的文章では自分たちの身近にあるものがテーマにされており、人々の生活について考える教材が取り扱われている一例としてあげられる。また巻末の「言葉の自習室」には読むことの補充作品や、さまざまな領域の活動や資料を掲載し、多様なカリキュラムへの対応や生徒の自学自習の参考資料、学習の多様化や重点の強調などができる工夫がなされており、大阪府が目指す学力の向上についての配慮がなされている。《①・②・③・④・⑤・⑥・⑧・⑨》</p>					
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>「自立の精神と勤労の精神」、「自他の敬愛と協力」、「真理の追究」、「生命の尊重と環境保全への寄与」、「伝統文化の尊重と国際理解・平和への寄与」といった教育基本法との関連を重視した教材が各学年に設けられており、生徒たちは国語の学習を通してこれらの理念を学ぶことができるようになっている。《①・②・③・④・⑤》</p>					
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>1年では、小学校国語との接続が意識され、3年では高等学校「国語総合」との接続が意識された単元構成となっている。古典は1年生では川柳や「東海道中膝栗毛」など生徒が興味・関心をもちやすい教材が取り扱われている。また、古典教材のつぎには近代文学教材を扱ったり、季節ごとに「四季のたより」を設定したりするなどして、教材の配置にも工夫がみられる。「文法の小窓」では会話形式で問題提起したあと、対応する「解説編」で詳しく説明されており、生徒が学びやすい形式となるよう工夫されている。そして、「言葉の自習室」に本編と関連した読み物資料や学習を補助する資料などが多く掲載されている。ただし、資料の記述に工夫が求められる。《①・⑩・⑬》</p>					
<p>4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点</p> <p>「話すこと・聞くこと」の教材では、学習の進め方と、課題解決のための「対話力」の育成を重視し、学習を視覚化することにより、生徒が学習の見通しとゴール、重点を明確におさえて取り組みやすいようにしている。また、アクティブ・ラーニングの視点もおさえるなど、現在求められている力を身に付けることができる工夫がなされている。教科の総時数のなかで無理のない学習計画を立てられるように必須教材の数を決めて構成している特徴もある。《①・②》</p>					
<p>5. 外的要素に関する観点</p> <p>用紙は文字の視認性が高く明るすぎない白色度である。記名欄はインクが馴染むように工夫もされている。表紙の紙がもう少し固い方が耐久性も上がると思われる。《①・②》</p>					
<p>6. 構成・配列に関する観点</p> <p>幅広いテーマからバランスよく教材が配置され評価の観点にも配慮がなされた構成になっている。《①・②・③》</p>					
<p>7. 資料その他に関する観点</p> <p>「言葉の自習室」に見られる読み物資料を豊富に掲載する工夫が見られる。資料を活用することで学んだ単元の基礎的・基本的な力が身に付くように工夫されている。《①・②・③》</p>					

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

第3学年巻末資料に「[発展]文語の活用」のページや各学年の巻末には基本的な学習用語のまとめがあるとともに、身につけたい力が生徒にとってわかりやすく示されている。また、本校の特色である分野別学習のうち、言語分野の生徒の学習資料としても活用できる質の高い内容となっている。さらに、同時代に生きる人間の姿を取り上げたノンフィクションの読書教材が3学年とも取り上げられていたり、郷土ゆかりの作家・作品が紹介されていたりと、いずれも「グローバル化が進む国際社会」や「我が国と郷土の伝統」に関心を持たせることができるよう配慮されている。《①・②・③・④・⑥・⑦・⑧・⑨》

2. 教育基本法に基づく観点

説明文教材や文学教材、読書教材などに、幅広いテーマの作品を採用している。たとえば桜守三代の生き方を通して自然、環境の保全、職業観、伝統の尊重などを伝える教材があげられる。また、震災後すぐに放送局を立ち上げた元アナウンサーのドキュメンタリーや、難民キャンプに生きるエルサルバドルの少女の記録などで、同時代に生きる人々の生き方・考え方を学ぶことができる。生徒は、国語の学習を通してこれらについて真剣に考え、未来を切りひらく力を育むことができるよう配慮されており、これらは教育基本法の理念にかなうものである。《①・②・③・④・⑥》

3. 学習指導要領に基づく観点

たとえばスピーチやグループ・ディスカッション、プレゼンテーションなど、多様な言語活動を取り上げ、実践的に学習できるよう工夫されている。また、言葉に関する活動コラムなども活用しやすく、「話す・聞く」「書く」の力を磨くことができるように教材化されている。説明文教材は生徒の発達段階に応じて適切な話題や題材を精選しており、その題材に適した文章構成、展開となっている。とりわけ各学年に格調高い近代詩が配置されていることは、本校の高等学校国語科と系統的に繋がっていくうえで魅力である。総合的に、読みもの教材は「読む」力を育成するのに適している。これらのことにより、本校生徒が学習指導要領の目標に到達するために活用する教科書として適していると考えられる。《①・⑩・⑫》

4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点

「情報活用力」を育成するための教材が系統性をもって配置されており、内容も充実している。たとえば図解と引用の方法が具体的に紹介されていたり、コラムの中でいろいろなメディアの特徴を知ったり、「情報発信」について、生徒がその活動を通してその意義や注意点を考えたりできるように配慮されている。これらは、情報社会を生き抜く力を身につけるのに適した教科書といえる。また、「根拠を明確にして意見を述べよう」という単元が2年生の半ばに配列されており、生徒にとってわかりやすい具体例が掲載されている。《②・③・④》

5. 外的要素に関する観点

製本が丈夫で、表紙も傷みにくい質のものが使われている。滑りにくい紙質の表紙を使用している。文字の大きさ、フォント・行間なども適切で、各単元の扉のページも見やすいデザインになっている。また、挿絵、写真なども鮮明で、大きさや位置なども適切に配置されている。《①・②・③》

6. 構成・配列に関する観点

幅広いテーマからバランスよく教材が配置されている。また、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」それぞれの教材が系統的に配置され、「身につける力」も系統的に明示されている。さらに、各学年の巻末折込に「読むこと」学習用語がまとめられており、発展的な学習内容であることがわかるようになっており、活用しやすい構成である。《①・②・③・④》

7. 資料その他に関する観点

全学年の古典の単元で、資料が美しい筆文字で掲載されていたり、古典が現代まで親しまれていることを表す資料として、絵巻物から絵本、切手、現代のアニメーション映画まで並べるなどの工夫がされている。巻末には小学校6年生で学習した漢字の一覧とともに、その書き取り練習が記入式でできるページが設けられており、生徒が主体的に学習できるよう配慮されている。《①・②》